

茨城県景気ウォッチャー調査結果（令和4年9月調査）

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状態を3か月ごとにアンケートで情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。
この度、令和4年9月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

1 調査結果

～ 景気の現状判断DIは前回調査から低下 ～

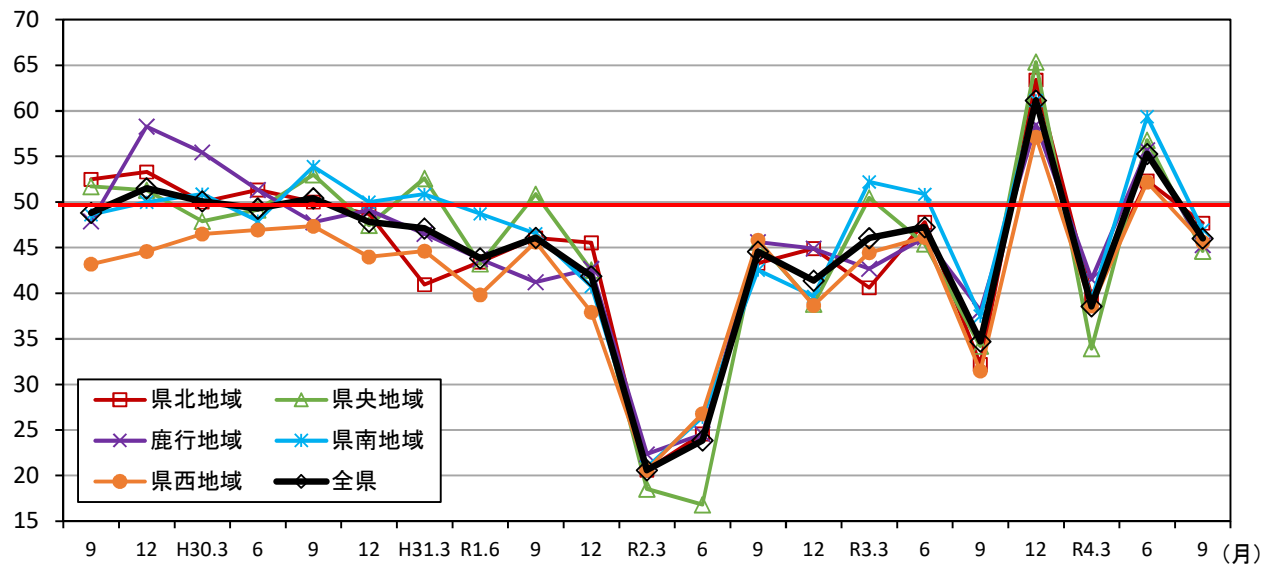
区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI(Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気の方向性（景気が上向きか下向きか）を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比（%）で乗じてDIを算出している。 <参考> DI値50超：上向き DI値50：横ばい DI値50未満：下向き
	6月調査結果	前回調査との差	6月調査結果	前回調査との差	
県全体	46.0	-9.3	46.3	-5.4	
県北	47.7	-4.6	38.9	-11.6	
県央	44.6	-12.2	51.8	-6.7	
鹿行	45.3	-10.4	45.3	-5.6	
県南	46.9	-12.5	47.8	-5.8	
県西	45.6	-6.6	47.4	+2.7	

☆ここがポイント

○県全体の景気現状判断DIは前回調査から低下し、2期ぶりに50を下回った。先行き判断DIについても2期ぶりに50を下回った。

○ウォッチャーからは、現状判断では新型コロナウイルスに関するコメントが、先行き判断では商品等の値上げに関するコメントが多く寄せられた。

(DI) 景気現状判断DIの推移（地域別）



[調査の概要]

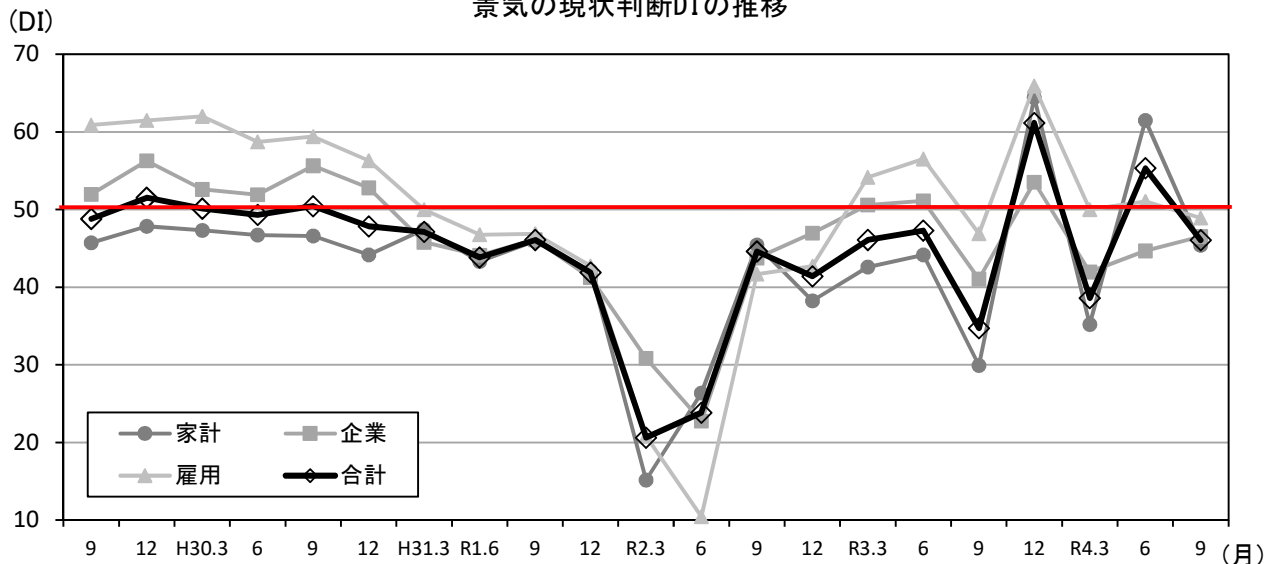
- ・ 調査客数 … 県内5地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに60名、計300名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気判断（「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択）とその判断理由（コメント）の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期（6、9、12、3月）毎に実施し、翌月公表。（今回調査期間：令和4年9月5日から20日まで）
- ・ 回答率 … 94%（300名中282名から回答）

(地域区分) 県北地域: 日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
 県央地域: 水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
 鹿行地域: 鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市
 県南地域: 土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
 県西地域: 古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

2 県全体の動向

(1) 現状判断DI

景気の現状判断DIの推移



分野	調査年月				
	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
合計	34.7	61.2	38.6	55.3	46.0
家計動向関連	29.9	64.4	35.2	61.5	45.4
小売関連	29.3	53.2	33.6	54.9	40.8
飲食関連	12.5	72.7	27.2	68.8	41.3
サービス関連	33.1	75.4	38.5	67.0	51.6
住宅関連	50.0	46.9	40.6	46.9	36.1
企業動向関連	41.0	53.5	42.0	44.7	46.5
農林水産業	45.8	57.1	34.4	34.4	37.5
製造業	38.5	53.1	41.7	43.1	46.3
非製造業	43.6	53.2	44.1	49.3	49.2
雇用関連	46.9	65.9	50.0	51.0	48.9

景気の現状判断DIは46.0となりました。前回調査より9.3ポイント低下し、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

家計動向関連DIは、前回調査より16.1ポイント低下し、2期ぶりに50を下回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より1.8ポイント上昇したものの、3期連続で50を下回りました。

雇用関連DIは、前回調査より2.1ポイント低下し、4期ぶりに50を下回りました。

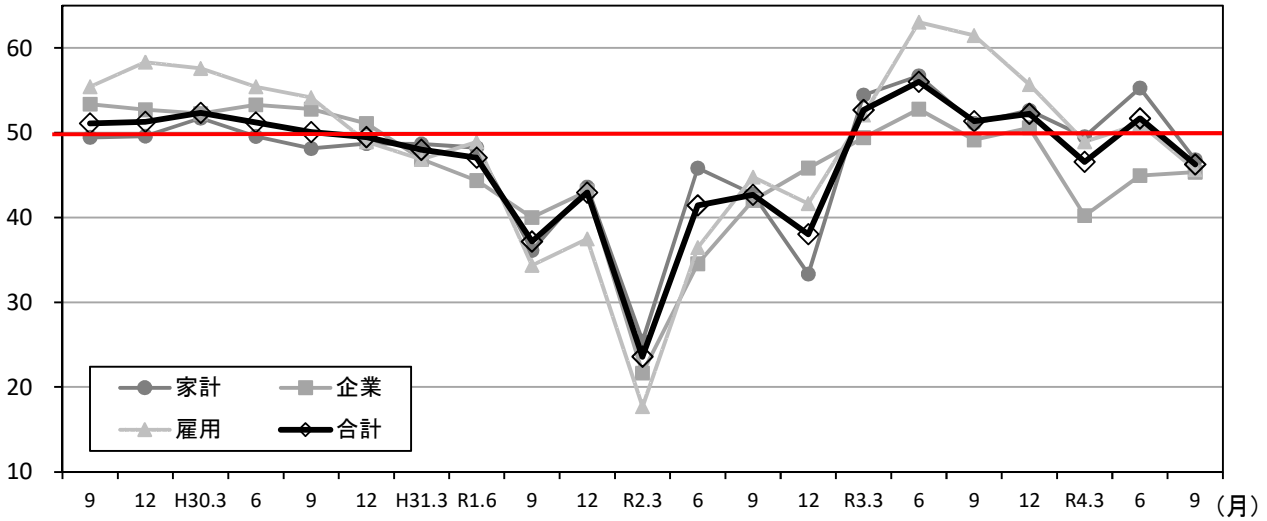
《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（県北：林業関係者）素材価格等横ばい。製品においては下落、需要薄の気配のため、やや悪くなっていると判断した。
- ・（県央：スーパー）物価が高くなっているのに、給料は増えないから辛いという声をよく聞く。還元セールなどのセール企画に、以前よりも敏感になっているようにも感じることから、やや悪くなっていると判断した。
- ・（鹿行：製造業（食料品））円安やウクライナ侵略などで、原材料高。また、原油高による経費高、利益減となっている。その上、客は物価高で可処分所得の減少。購買力に力がない。当然、売上げが減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
- ・（県南：スナック）新型コロナウイルスの感染者が過去最高になった事が影響しているのか、今までになく客数は減少しているため、悪くなっていると判断した。
- ・（県西：レストラン）コロナ禍における人数制限がなくなったり、酒の提供ができるようになったのはありがたいが、6名から8名位のグループの食事会や、団体の歓送迎会などのイベントが全くなし、売上げが伸びないため、やや悪くなっていると判断した。現在の物価高や電力やガスの値上がりが店を圧迫する。

(2) 先行き判断DI

景気の先行き判断DIの推移

(DI)



分野	調査年月	令和3年9月	令和3年12月	令和4年3月	令和4年6月	令和4年9月
合計		51.4	52.2	46.6	51.7	46.3
家計動向関連		51.1	52.6	49.5	55.3	46.8
小売関連		48.6	49.6	48.4	47.0	40.4
飲食関連		46.6	58.0	46.6	71.3	52.5
サービス関連		56.8	54.7	52.1	61.0	51.3
住宅関連		33.3	46.9	43.8	31.3	44.4
企業動向関連		49.2	50.6	40.2	44.9	45.3
農林水産業		41.7	50.0	31.3	28.1	34.4
製造業		47.4	48.4	40.0	46.3	48.4
非製造業		52.9	54.0	42.6	47.1	43.5
雇用関連		61.5	55.7	49.0	51.0	45.7

景気の先行き判断DIは46.3となりました。前回調査より5.4ポイント低下し、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

家計動向関連DIは、前回調査より8.5ポイント低下し、2期ぶりに50を下回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より0.4ポイント上昇したものの、3期連続で50を下回りました。

雇用関連DIは、前回調査より5.3ポイント低下し、2期ぶりに50を下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(県北：製造業(化学工業)) 製品価格にコストを転嫁することが、ますます困難になると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。特に円安。
- ・(県央：割烹料理店) そろそろ新型コロナウイルスの影響が少なくなると思うので、やや良くなっていると判断する。
- ・(鹿行：小売業(菓子類)) 原材料の価格が上昇して商品の価格を上げざるを得ない。また、消費が落ち込み景気はやや悪くなると思う。
- ・(県南：農業関係者) 現在の海外情勢から国内の情勢を鑑みると、金利・円安をはじめ、成長に著しい懸念が抱かれる。各業界でも物価の上昇が認められ、家計および農業経営に与える影響は大きく、消費の低迷が懸念され、景気好転とは言い難いと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
- ・(県西：小売業(酒類)) 値上げを見越して、飲食店も含めて今月は買置きをする客が多く、来月以降の売上げはだいぶ下がると見込まれるため、やや悪くなっていると判断する。3か月後は年末商戦の時期だが、財布の紐は硬いかと思われる。

3 地域別の動向（※調査結果はP.1参照）

（1）県北地域

- ① **現状判断：** 景気の現状判断DIは47.7となりました。前回調査より4.6ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（スーパー）物価上昇の影響もあり、生活防衛が加速し前年の推移と比較して売上げの落ち込みが大きくなっているため、悪くなっていると判断した。売上げも前年比90-95%と伸び悩んでいる。
- ・（不動産業）賃貸でも安い物件を探す客が多く、昨年と比較しても家族向けの物件の動きが少なくなっているため、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断：** 景気の先行き判断DIは38.9となりました。前回調査より11.6ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（小売業（水産物））物価高騰の影響で、購買意欲が低下するように感じるため、やや悪くなっていると判断する。
- ・（製造業（食料品））製品価格の値上げが相次ぎ、消費マインドが冷え込むため、悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（スーパー）商品棚から商品を取るときは、奥からなるべく日付の新しい商品を選ぶ客が増えている。また、食品の値上げにより無駄をなくすため、メモを見ながら購入する客が増えている。
- ・（金融業）中小事業者において、材料や燃料費高騰などに対し価格転嫁できない状況が見受けられる。

（2）県央地域

- ① **現状判断：** 景気の現状判断DIは44.6となりました。前回調査より12.2ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（都市型ホテル）全体的に利用客が減っており、特に宴会が激減しているため、悪くなっていると判断した。会食はできないので、今年はなしとの客が多く、延期する客も多い。
- ・（製造業（食料品））新型コロナウイルスの第7波および酷暑の影響で、外食系受注の明らかな減少が見られたため、悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断：** 景気の先行き判断DIは51.8となりました。前回調査より6.7ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（レジャー施設）第7波のピークアウトが見込まれ、外部環境も良くなることが予想されるためやや良くなっていると判断する。昨年度も実施された補助制度（Go To トラベル、いば旅あんしん割等）が継続されると、周辺施設も活性化されると思われる。
- ・（人材派遣業）しばらくは求人依頼が続きそうなので、やや良くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（自動車販売店）物品の値段が急激に上がりすぎている。また原材料、製品がすぐに入荷、入手できず大半の物が長納期になってきている。
- ・（都市型ホテル）法人や団体関係は動き出しているものの、まだまだ感染状況によりキャンセル等は発生している。

(3) 鹿行地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは45.3となりました。前回調査より10.4ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（小売業）いろいろな物やサービス、エネルギー等値上がりしているものが多く、個人・企業共に景況感が悪化していると思う。
- ・（サービス業）例年、6月以降に受注が増える傾向ではあるが、今年は昨年に比べても発注、引合が少なく動きが鈍いと感じるため、やや悪くなっていると判断した。現時点では、国際情勢の動向（ウクライナ、円安、半導体等）を観察しているようであり、しばらくは我慢が続くものと考ええる。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは45.3となりました。前回調査より5.6ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（衣料品販売店）物価がどこまで上がるか不透明な状況。先行きが不安でしかないので、やや悪くなっていると判断する。
- ・（農業関係者）円安、ウクライナ等の問題で、原材料の高騰は先が見えない状況が続いているので、農業経費の増加が止まらない。そのため農業所得の増加には繋がらないと思われるので、悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（理・美容店）材料費の値上げが多く、基本料金の値上げを検討している。
- ・（サービス業）あらゆる業種において資材、エネルギー高騰への対応に苦慮している客が多く、値上げの動きが活発になってきているのを実感する機会が多くなった。現状における社会の値上げへの理解は進んできていると思うが、値上げをすることによるデメリットのフォローに苦勞している客が見受けられる。

(4) 県南地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは46.9となりました。前回調査より12.5ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（住宅販売会社）物価高と新型コロナウイルスの第7波により、客がやや減っているため、やや悪くなっていると判断した。
- ・（運輸業（倉庫業））貨物の動きが以前よりも低調になっているため、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは47.8となりました。前回調査より5.8ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（スーパー）商品の値上げラッシュが続き、購買意欲が減ってきているように思うので、やや悪くなっていると判断する。
- ・（建設業）資材関係高騰による受注難のため、悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（住宅販売会社）弊社の不動産の小口証券化が販売開始3分で完売するなど、貯蓄から投資への動きがでてきているように感じる。
- ・（製造業（非鉄金属））新型コロナウイルスの影響は生産にも影響しており、人員確保に苦慮している。

(5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは45.6となりました。前回調査より6.6ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（コンビニエンスストア）コロナ禍において人流が増えた状況は続いているものの、物価高騰による買控えが増えているように思うので、やや悪くなっていると判断した。
- ・（製造業（印刷・同関連業））電気料金、材料、ガソリン料金が上がり、コストを圧迫しているため、悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは47.4となりました。前回調査より2.7ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を3期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（不動産業）売買物件のうち高額物件の間合せが増えているため、やや良くなっていると判断する。
- ・（自動車販売店）末端の製造業の景気が戻らないと、製品化されない。我々の業種に反映されるのは早くても、半年から1年はかかると思われるため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（食堂）いろいろな物が大幅に値上がりしているため、コロナ禍の自粛ではなく、金を使わないように外出を自粛している人も多いように思える。
- ・（人材派遣業）引き続き採用難のため、派遣料金の引き上げに応じる企業が増えてきている。

4 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

- ・「値上げ、高騰、上昇」に関するコメント 185件（県北：40 県央：43 鹿行：30 県南：41 県西：31）

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（コンビニエンスストア）価格高騰に対し敏感になっており、今まで以上に価格への関心が高くなっている。
- ・（ゴルフ場）これだけ、生活に必要な物が不足、高騰するのは近年ないと思う。とても厳しい状況だ。

- ・「新型コロナウイルス」に関するコメント 157件（県北：26 県央：35 鹿行：29 県南：40 県西：27）

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（設計事務所）制限は解除され、新型コロナウイルスと共存した状況とはなっているが、依然自粛ムード。街に活気が戻っているとは感じられないため、変わらないと判断した。
- ・（農産物直売所）引き続き新型コロナウイルスの影響により、客足は増えたり減ったり一進一退の状況が続きそうだ。そのような状況の中、景気が大幅に変動するとは思えないため、変わらないと判断する。

- ・「円安」に関するコメント 52件（県北：8 県央：12 鹿行：9 県南：10 県西：13）

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（自動車販売店）円安、ウクライナ問題等により原材料価格が高騰し、様々なものが値上げになり、生活維持が優先になったことで、高額の出費になる物の消費活動は鈍くなると思われるため、やや悪くなっていると判断する。
- ・（製造業（輸送用機械器具））円安継続、原油価格の高値継続、更にはウクライナ情勢悪化に伴う更なる材料高騰並びに部材供給逼迫懸念が払拭されておらず、依然として国内外の景気は好転の兆しが見えてこないため、変わらないと判断する。

(注) より詳しい情報については、当課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>